

## お わ り に 往 く べ き は 平 和 の 道

「あのときから世界は狂ってしまった・・・」

あのときから2年半、世界の人々の心に深く淀んでいる想いに違いない。

「これは単なるテロではない。戦争だ。だから報復戦争だ・・・」。このブッシュ大統領の叫びが、確かに世界を変えた。あのとき・・・吹き荒れるグローバリゼーションの嵐のもとで、亀裂が深まった世界や荒廃した大地に思いを寄せる冷静な良識が息づいていれば、少しは違った世界になっていただろう。

だが、衝撃的な映像が世界を「報復戦争ヒステリー」に陥らせ、やみくもにアフガン報復戦争が強行され、劣化ウランを大量に含んだ最新鋭兵器がアフガンの大地に叩き込まれた。そして、暴力の連鎖は不安と不信と亀裂の拡大を引き起こし、世界の声に背を向けたイラク侵攻戦争が開始され、またも大量殺戮兵器が民衆の頭上を襲い、都市が破壊され、村が焼かれた。

その結果なにが生まれたか。

アフガンにもイラクにも平和は到来せず、抵抗戦争と掃討作戦が続いている。「自爆テロ」や「大規模テロ」が世界に拡大し、パレスチナはまたも武力攻撃とテロの応酬に戻ろうとしている。そして、恐怖と不安のもたらす相互監視と偏狭なナショナリズムが世界を覆おうとしている。

これが「あのときから2年半」の偽らざる真実である。

この国を「戦争に出て行こうとする国」に変えようとする有事法制もまた、この世界のなかの「一風景」としてあり続けた。

「報復戦争ヒステリー」のなかで眠っていた有事立法研究が覚醒され、「侵攻型有事法制」に装いを変えて国会に登場した。イラク戦争で米軍の圧倒的な軍力と「専制君主からの解放」が世界に報じられるもとの、その有事3法案の成立が強行された。そして、世界に非戦や撤兵の声が広がるもとのイラク派兵を強行した小泉政権が、「イラク戦争の後方の構築」を付加して提出したのが戦争法案だった。

これもまた、この国の動かしようのない真実である。このまま推移すれば、いつか人々はつづやくに違いない。「あのときからこの国も狂ってしまった」と。

冷静に事実を見つめて平和的解決をめざそうとする良識は、あの「報復戦争ヒステリー」のなかでも確かにあった。

荒廃したアフガンの救援のために、世界のNGOは献身的な活動を続けていた。そのキーワードは「武力ではなく平和を」「人間の尊厳と自立を」だった。これは有事法制闘争に先立ってアフガン国境の難民キャンプを訪問した自由法曹団アフガン問題調査団が伝えた、

現地の真実だった。

その平和的解決と自立の努力はいまも続けられている。

アフガン戦争以前から給水活動を続けてきたペシャワール会は、いまもアフガンの荒野で井戸を掘り続けている。「アフガン法廷」ではアフガン戦争の真実が明らかにされ、ブッシュ政権と米軍の戦争犯罪が白日のもとにさらけだされた。自由法曹団内外を問わず、「アフガン法廷」や劣化ウラン弾被害の除去のために奮闘している弁護士も数多い。イラクを訪れた自由法曹団団員の女性弁護士の呼びかけではじまった「セイブザイラクチルドレン名古屋」は、イラクへの医療支援の活動を続け、劣化ウランに侵された少年を日本の病院で治療している。

平和・非戦のなかで問題解決と救援・復興を果たそうとするこうした活動は、非戦・平和の大きなネットワークを生み出し、それが世界を突き動かしつつある。イラク戦争1周年の3月20日には再び世界規模の非戦・平和の行動が展開され、スペインでは撤兵を主張する社会労働党が圧倒的な勝利をおさめた。

「報復戦争ヒステリー」から覚めた世界が生み出したのは、「暴力の連鎖」を克服する世界規模の「民衆の連帯」であり「非戦のネットワーク」だった。その連帯やネットワークは、「狂ってしまった世界」を人間が暮らすコミュニティに回復していく原動力になるに違いない。

有事法制のたたかいに立った2002年1月から2年余、自由法曹団と団員の弁護士が問い続け、言い続けてきたのは、最終的にはただ1点に尽きる。

世界が「暴力の連鎖」の愚かな道に投げ込まれようとしているもつとで、平和憲法をもって曲がりなりにも非戦・平和の足取りを続けてきたこの国はなにをすべきなのか。有事法制や自衛隊派兵を強行し続けて世界を狂わせたブッシュ政権の戦争の道にあくまで追随するのか、それとも非戦・平和を掲げて平和的解決の道を進むのか。

不幸にしてこれまで2年半、小泉政権が選び続けたのは戦争の道だった。

その戦争の道は、戦火のイラクに地上軍を展開させ、「大規模テロ」に脅えて戦争法制の整備に走り、恐怖と不安に脅えて相互監視社会を生み出すところまでできてしまっている。

だが、その2年半、世界が証明したのは「武力で平和は創造できない」「戦争でテロは根絶できない」という冷厳な真実であり、世界の趨勢は明らかに平和の道にある。

戦争法制が提出されて再び戦争と平和が「政治の舞台」に登場したいま、自由法曹団と1600名の団員弁護士は重ねて言う。

この国と北東アジアと世界の明日をかけて、往くべきは平和の道。

いまなすべきことは、イラクから自衛隊を撤兵させ、有事3法を廃止し、戦争法制（有事7法案・条約3案件）を廃案にすることなのである。